

第 4 回

新市建設計画策定検討小委員会

会 議 資 料 目 次

会議次第 P	1
前回小委員会での意見及びその対応状況について P	3
タウンウォッチング意見集約 P	5
新市建設計画基本構想（修正案）		別 冊

日時：平成16年6月14日（月）午後3時から
場所：打田町保健福祉センター 3階 大会議室

那賀5町合併協議会

第4回 新市建設計画策定検討小委員会
会議次第

日時：平成16年6月14日(月)

午後3時から

場所：打田町保健福祉センター

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 会議録署名委員の指名

4. 報告事項

・ 前回小委員会での意見及びその対応状況について

5. 協議事項

新市建設計画基本構想(案)協議について

その他

6. その他

次回開催日程等について

月 日()

7. 閉会

新市建設計画策定検討小委員会委員事務局名簿

委 員

	氏 名	所 属	備 考
5 町の助役 (2号委員)	ふしながともひろ 藤永 知宏	打 田 町	
	ますだとしお 増田 敏郎	粉 河 町	
	まるいこうじ 丸井 幸次	那 賀 町	委 員 長
	せんだひろむ 千田 弘	桃 山 町	
	たけへぜんじ 武部 善次	貴志川町	
5 町の町が協議 して定めた学識 経験を有する者 (5号委員)	うえのとみかず 上野 富一	打 田 町	副 委 員 長
	まついのぶお 松井 信雄	粉 河 町	
	おかだくにお 岡田 邦夫	那 賀 町	
	うだひろし 宇田 寛	桃 山 町	
	かわかみだいぞう 河上 泰三	貴志川町	

事務局職員

	氏 名	所 属	備 考
事 務 局 長	黒田 敏 弘	那 賀 町	
事 務 局 次 長	奥谷 敏 夫	粉 河 町	
事 務 局 参 与	小島 大	和歌山県	
総 務 課 長	栗山 房 大	桃 山 町	
調 整 課 長	狭間 秋 友	貴志川町	
計 画 課 長	岩坪 純 司	打 田 町	総 括
計 画 課 主 幹	堀内 信 宏	桃 山 町	計画全般担当
計 画 課 課 長 補 佐	杉本 太	那 賀 町	財政計画担当

新市建設計画策定検討小委員会における意見及び対応状況について
〔平成16年5月28日(金)開催分〕

該当項目	ご意見・ご指摘	考え方・対応の方向等
<p>前回の意見及び対応の報告における訂正について</p> <p>新市建設計画基本構想たたき案について</p>	<p>・河上委員 基本構想の農業に関する協議の中で「様々な大学を誘致することも考えていても良いのではないかと」は言った覚えがないのでその部分を削除してもらいたいのですが。</p> <p>(序論について) ・藤永委員 「新市の概況」の『交通』の中でJR和歌山線について書かれているが、1日の本数についてもう少し多いのではないかと思います。</p> <p>(基本構想について) ・宇田委員 「背景」について、意識調査の中で交通の便を良くしてほしいという意見が多いのですが、広域交通基盤については書かれているが、生活道路の整備が書かれていないので、入れた方がよいのではと思います。</p> <p>・丸井委員長・武部委員・上野委員・千田委員・岡田委員 「将来像」の中で、キャッチフレーズについて、『美しい暮らし』とはどういう暮らしなのかわからないし、別に『美しい』という表現を入れなくても良いと思います。もっと短い文章で住民が親しみやすい、またわかりやすいキャッチフレーズを考えてはどうかと思っています。</p> <p>・河上委員 『人々がまちづくりを担う力を養う』という表現は難しいので、表現を変えた方が良いのではないのでしょうか。特徴がない新市なので創意工夫しなければならないと思います。産・学・官の取り組みについて検討してもらえるとことなので、期待をしております。</p> <p>・岡田委員 『地域の活力を養う』について、5町の一体化を担う生活道路について見えてこないように、思います。</p>	<p>・削除します。</p> <p>・訂正していきます。</p> <p>・検討します。</p> <p>・キャンパスに絵を描くイメージで美しいと表現しています。キャッチフレーズについては、職員にも意見を聞いておりますので、良いキャッチフレーズがあれば、またお示ししたいと思います。</p> <p>・検討します。</p> <p>・有機的な連携の中に入れていきたいと思えます。</p>

・丸井委員長
「主要指標の見通し」について、基本構想では人口推計が重要で、コーホート要因法では人口は減少するのはわかりますが、減少をしていくような計画というのはいかがなものでしょうか。

・宇田委員
国・県の人口はどうなるのか、5町には地理的なメリットがあるのに、人口が減少するのはどうしてなのでしょう。

・上野委員
「土地利用構想」農地について『作る農業』や『楽しむ農業』は果樹だけではないので、『果樹』という表現を変えてもらいたいですし、ため池や水路の整備、都市農村の交流などを入れて頂きたいと思います。また、工業用地については雇用促進に関することを入れて頂きたい。

・千田委員
「ゾーン」について、主軸やゾーンをもう少し、具体的な表現にした方がよいのではないのでしょうか。この表現だと、424号線は海南まで素通りしてしまい、中山間ゾーンにある県道桃山かつらぎ線が、そのゾーンの整備促進を促す役割を持っているのが見えてこないと思います。

・河上委員
打田町と桃山町にある工業団地の説明をゾーンの中に入れた方がよいのではないのでしょうか。

・宇田委員
「新市発展プロジェクト」『いきいき人・まちプロジェクト』について、一番大切なのは将来に向かって、どうしていくかと言うことなので、そういう意味では教育は重要な問題であり、学校教育や社会教育のありかたをもっと入れていくべきだと思います。

・上野委員
スポーツ少年団や子供たちのスポーツ振興について、色々なスポーツが出来るような環境を整える事業の中に入れてもらいたいです。

・上野委員
『きらきら土・水・緑プロジェクト』について大きな意味でグリーンツーリズムを一番に持ってきてはどうですか。

・国・県の人口については、減少傾向にあります。そんな中で、この5町はある程度踏みとどまっているのですが、この人口を維持し増加していくという計画を検討し、策定していくのが、この小委員会での役目であると思いますので、期待値として人口増になるような計画をたてていくべきだと考えています。

・変更、追加していきたいと思います。

・桃山かつらぎ線を主軸に入れるのは難しいのですが変更できるように検討してみます。

・加えていきたいと思います。

・参考にし、検討します。

・検討していきたいと思います。

・検討してみます

タウンウォッチングでの感想や有効利用等意見（要約）

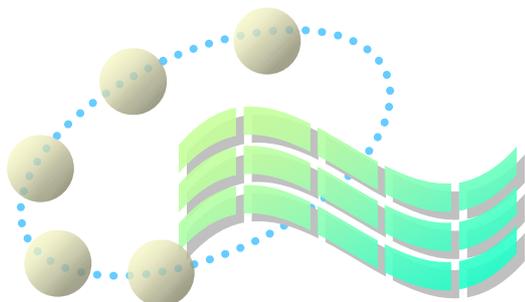
施設名	感想	今後の方向	課題
紀伊国分寺跡及び 歴史民俗資料館	歴史的遺産として価値がある	学校教育施設、観光施設として活用	進入路、駐車場の整備 広報活動 民間委託の検討
東急車輛等北勢田 ハイテクパーク	立地条件は良いが、未処分地が目立つ	近在都市との共存	未処分地の処分 地元雇用の確保
粉河ふるさとセンター	5町の中心に位置する代表的な文化施設	文化芸術振興の拠点施設	維持管理費の縮減 生涯学習を中心に、自主イベントの開催
粉河学校給食センター	最新施設を有する近代施設	供給校を増加させる	各校同様の献立 民間委託の検討
青洲の里及び春林軒	世界に誇る偉人の偉業は、新市の観光、文化の目玉となりうる	周辺整備が必要	反復訪れる施設でない 医学方面等幅広い広報が必要
アメニティセンター	環境に配慮した新しい施設で、能力的にも余裕がある	広域的な新しいゴミ処理施設の検討	広域処理か、現施設の有効稼働
保健福祉センター	地域福祉事業のセンター機能を有している	福祉センターを核とした福祉保健ゾーンの形成	
桃山工業団地	優良企業が誘致されており、地域活性化につながっている	種苗会社等農業立地と合わせた企業誘致	企業誘致活動
シルバー人材センター	先進事例として安定的な活動を行っている	新市において全域での活動	
平池周辺整備	新市の市民の憩いの場となる水、緑、文化、歴史の一体化が実現	大池などの周辺施設との一体整備	外来種の魚の取り扱い 心の癒される公園整備

打田町	紀伊国分寺跡	<p>史跡及び資料館とも立派であり、歴史的・文化的遺産として貴重である。進入道路の整備と標識の設置、PRが必要と思う。学校教育の一環として活用されるよう協力要請してもよい。</p>	<p>歴史的価値の大きい貴重な遺跡であり、将来の生涯学習の場としても、その役割を果たすものと思われま</p>	<p>小中学校の遠足や社会見学施設として、今後幅広く活用できると感じた。</p>	<p>バス等大型車も入りやすい駐車場の確保。 寺域が殆ど残されている貴重な史跡。小学生の遠足にも適している。よりPRを。</p>
	ハイテクパーク	<p>工業団地を見学したが、いずれも優良企業が進出しているように思う。遊休地の活用がこれからの重要な課題と思う。 地価下落のあり、売却が無理なら賃貸契約等有効な活用が必要と思う。</p>	<p>合併での新市に伴い、交通網及び近在都市と共存できる産業交流の位置であり、地域活性化に希望の持てる企業誘致場所である。</p>	<p>よい工業団地であるが、更地が目立ち今後活発に企業誘致を進められたい。</p>	
粉河町	ふるさとセンター	<p>郡内でも有数の文化施設であるが、管理費等に多額を要すると思う。 したがって、各種イベントや生涯学習活動を積極的に活用させる方策を図る必要がある。</p>	<p>地域住民の＜学びたい心を満たす＞というなかで、生涯学習事業を中心とし、自主事業やイベントを開催する必要な施設である。</p>	<p>新市誕生後の教育文化活動の中心として利用すべき施設と思うが、今後の維持管理の面について検討が必要と感じる。</p>	<p>定期的実施している演劇鑑賞。 ともすれば、和歌山市中心になりがちなか、粉河で開催していることは、文化芸術の振興の面からも大変重みのあることでうれしい限りです。</p>
	給食センター		<p>必要性のある学校給食施設であり、特に最新の厨房機器設備や衛生面での安全性を十分に確保したセンターである。</p>	<p>現在の状況で給食の供給能力が限界との説明がありましたが、粉河町と那賀町の区域をカバーできれば、今後の利用価値は高いように思われる。</p>	<p>米飯給食のみとのこと。食のバラエティを考え、パン食も取り入れてはと思いました。 僻地校でも同じ給食ができる。ご苦労も多いと思いますが、ありがたいことです。</p>
那賀	青洲の里		<p>世界で最初の全身麻酔を成功させた医聖華岡青洲の偉業を成し遂げたドラマの舞台後であり、今後の文化教育に必要な施設である。</p>	<p>今後、新市が誕生した場合は観光の目玉となる施設であるが、もう少し周辺の整備が必要と思われま</p>	<p>春林軒（主屋）の移築、復元は、往時を偲ぶためにも大変価値がある。フラワーミュージアムの展示も青洲の偉業を知るうえで立派に整理されている。 以前、旧和医大の庭にあった「物理究理」の碑を思い浮かべました。</p>

町	アメニティセンター	<p>広域ごみ処理施設の建設が重要と考えられるが、それまではこの設備のメンテナンスを充分おこない、処理能力の維持が必要である。</p>	<p>現時点での設備性能及びその目的は果たしていると思われず。 今後総合的処理施設として、処理方法等については検討すべき課題が残されており。</p>		
桃山町	保健福祉センター	<p>福祉センターを中心とした福祉保健ゾーンとして活用する。</p>	<p>今、社会で求められている地域福祉事業の最も大切な施設であり、ボランティアの方々の協力も得て、その設備はすばらしいものである。</p>		<p>特に休憩室でのデイサービス。参加者と職員が一体となって歌っている様子を拝見し、参加者の明るく楽しさ一杯の表情と、指導者の汗だくの取り組み、感銘を受けました。</p>
	工業団地		<p>工業団地として地域発展性があると思います。 また、地場産業性を取り入れた企業もあり、地域活性化が望まれます。</p>		
川貴志	シルバー人材センター		<p>地域社会での日常生活に密着した事業であり、これからの高齢者社会に最も必要性のある事業である。</p>	<p>幅広く活用されており、合併後もさらに充実した内容で活動してほしい。</p>	<p>早くから取り組み、事業も定着している状況を聴かせてもらい、これから事業に取り組む本町にとって運営面等でたくさんの示唆をいただきました。 今後、それぞれの地域の特性を活かし、お互いに連絡を密にし、協力し合って幅広い要望に応えられるよう充実発展を図れたらと思います。</p>
	平池周辺整備	<p>周辺道路の整備。平池と大池遊園と結ぶハイキングコースを作ってはどうか。 また、野鳥観察だけでなく、水生動植物の観察場所も作る。</p>	<p>水、緑、文化、歴史の一体化。完成後のすばらしい公園が期待されます。</p>	<p>広大な公園整備がされているが、現在整備中で実感がわかない。 完成後は市民の憩いの場として利用されるものと思う。</p>	<p>貴重な歴史遺産を大切に守りつつ、水と緑に恵まれた豊かな自然を活かし、いわゆる「心を癒す場」の充実、整備を図ることも新市にとって大切である。</p>

打田町	紀伊国分寺跡	<p>国、町の重要な建物であり、歴史館として管理運営していけたらと思う。 進入路の拡幅、整備が必要。 民間委託の方向で。</p>	<p>紀伊国分寺跡歴史公園として、できれば復元していければ一層素晴らしい歴史公園となり、歴史民俗資料館と共に多くの人が見学に訪れるようになると思います。</p>	<p>広報活動にもっと力を入れてほしい。 歴史民俗資料館の入り口が分かりづらく、また、道路整備や駐車場駐車場の整備が必要であり、北の道路より案内図が必要です。</p>	
	ハイテクパーク	<p>財源確保のため、早い時期に残地への企業誘致を望む。</p>		<p>当ハイテクパークにおいては、雇用が少なく、今後雇用の充実が必要で、現地雇用をもっと増やすようにしてほしいものです。</p>	
粉粉町	ふるさとセンター	<p>5町の中心的な場所にあり、大ホール、小ホール等を備え、今後の大小の会議等、有効な利用が図られていくであろうと思う。</p>	<p>大ホールの活用を考え、多くの方に利用していただければと思います。 小ホール、各室の使用は多く、皆様に活用していただいているようです。</p>	<p>今後、新市においては有効的に利用できる施設です。</p>	
	給食センター		<p>最新のフルドライシステムを採用した給食センターとして稼働し、材料については、地元JA、商工会を通じての購入ということで、地域の活性化に少しでも役立つでしょう。</p>	<p>新設ということで、まだまだ未知ですが、今後、地域のためには大変重要な施設だと考えます。 給食センターについては、民間に委託することもできたのではないかと思います。今後の状況において検討する必要があると思います。</p>	
賀那里	青洲の里	<p>日本が誇る偉大な人の生家であり、未来へ残すべきである。 民間委託の方向で。</p>	<p>展示室春林軒を見、説明をいただき、華岡青洲先生は麻酔薬を作るために取り組んだことがよく解ります。 多目的ホール、レストランふれあい農園を備えた青洲の里を見学し、見て感じて、体験する場としてこれからも期待します。</p>	<p>教育文化施設ということで、何回も来られる施設ではないので、今後医学系の大学へのアピール等、幅広い広報活動が必要ではないかと思えます。</p>	

町	アメニティセンター	高性能なる過式集塵機、有害ガス除去装置、その他新方式の優れた近代的な施設と確信致しました。 また、町外からのゴミも処理でき、増加に対応した設備と思いました。	今後、ゴミ処理センターについては、各町、各地域調整のうえ有効利用が可能だと思います。	
桃山	保健福祉センター	民営化の動きが出ている中、町福祉センターとして機能を充分発揮できる施設と思います。 環境の良い場所で福祉センターとして運営していけると思います。	自然環境に恵まれた素晴らしい保健福祉センターです。 今後、大変有効利用できる施設だと考えます。	
町	工業団地	今の時期大変困難であるが、優良企業誘致に向け積極的な活動を行い、実現を目指しては。	工業団地として、無駄のない企業誘致をして受益になっていると思います。	種苗会社等の誘致等を積極的に進めていければと思います。 貴志川には、県の農業試験場があり、今後より一層有効利用ができると思います。
貴志	シルバー人材センター	高齢化社会に突入した現在、高齢者の生きがい、また、社会参加等ここを拠点として各町に普及させ、町民のため、また、高齢者のために今後も積極的に推進していく。	これからは、各地域でもシルバー人材の育成を推進していくことで、能力を活かし、社会に参加できることにより、生き甲斐を見つけ豊かな老後生活を送っていけると思いました。	各町シルバー人材センターを考えていると思いますが、新市においては一つのシルバー人材センターということですか。 各町に窓口を作って各町ごとに対応できるようにする事ができるかということだと思います。
川町	平池周辺整備	町民の憩いの場として利用していたらと思う。	豊かな自然環境として、歴史的空間に恵まれた公園整備ができれば、野鳥観察、古墳公園、オムニバス公園として素晴らしいまちづくりができると思います。	平池の整備中ですが、池の利用の方法が重要だと考えます。 山田ダムより水が入ってくるということで、ブラックバス、ブルーギルの外来種が入り込む可能性が高く、有料のブラックバス釣りを場所を決めてするか、また、釣り禁止でブラックバスを駆除するのか。



第 1 章 序 論

1 合併の必要性和効果

- (1) 合併の必要性
- (2) 那賀 5 町合併によって期待される効果
- (3) 住民の意識と計画課題

2 計画策定の方針

- (1) 計画策定の趣旨
- (2) 計画の構成と期間

3 新市の概況

- (1) 位置・地勢
- (2) 交通
- (3) 人口
- (4) 土地利用
- (5) 各町の概況

1 合併の必要性と効果

(1) 合併の必要性

打田町・粉河町・那賀町・桃山町・貴志川町的那賀5町は、いずれも「昭和の大合併」によって昭和30年、31年および32年に誕生したものです。その後、5町は半世紀弱の期間、それぞれに発展の道を歩んできました。

そして21世紀の初頭に立つ現在、住民生活の変化、人口の減少と少子高齢化の進行、経済の安定成長、地球環境問題の解決、国際化・情報化への対応など、これまでの地方自治体の枠内では解決のむずかしい課題が増大してきました。

那賀5町は、よく似た気候・風土や歴史的伝統のもとにあるだけでなく、ともに紀の川水系を擁していることや果樹栽培などの農業が盛んなことなど、地理的な一体性や社会・経済活動面での深い結びつきを有しています。

行政においては、21世紀の課題を的確に受け止め、より充実したまちづくりを進めることが求められています。そのためには、財政力を強化し、地域を一体的にとらえた施策を推進する必要があり、合併はその好機となるものです。

人びとの暮らしに合わせた行政圏の形成

那賀5町に住む従業者の合計は34,663人で、そのうち17,493人のひとが町外に出て働いており、これは従業者の50%に当たります。(平成12年国勢調査)

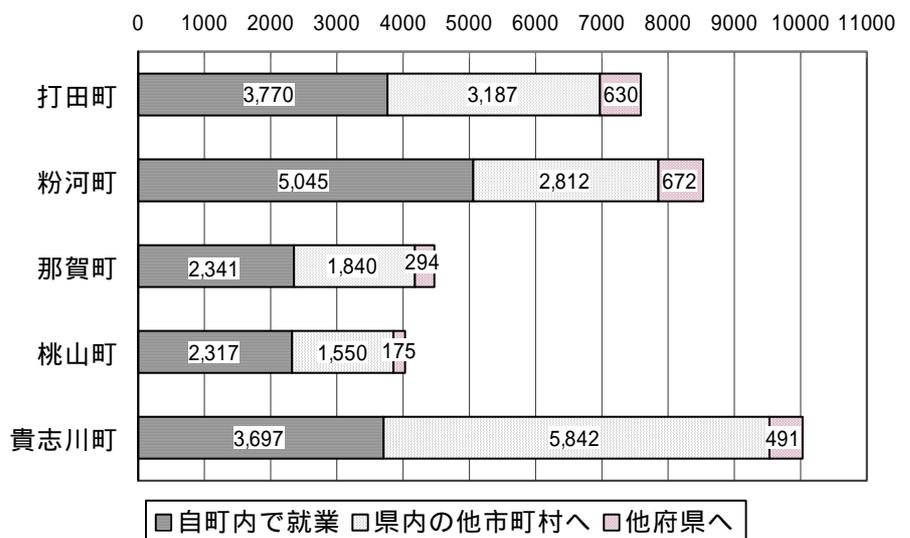
那賀5町では、地域に根ざした農業が発達しているものの、現実にはこのように町外で働く住民が増えており、就業だけでなく、買物、娯楽、文化・学習活動などの日常生活においても、町外で行うことが珍しくなくなってきました。

~~であり、交通基盤の整備やモータリゼーションの発達に伴い、日常生活圏が拡大しています。~~
~~また、その内容も多様化し、高度化してきています。~~
 町外に出ることが多くなっています。

また、その内容も多様化し、高度化してきています。

行政においても、これらの生活行動を広域的にとらえて各施設の

就業者の従業地 (単位:人)



資料：平成12年国勢調査

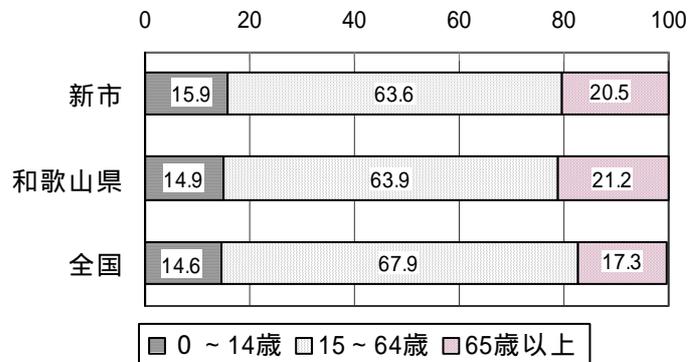
連携を図ることが必要になってきています。また各町が単独で対応するよりも、合併によって行政サービスの質を充実することや施設の高度化を図ることが求められています。

社会と経済の変化への対応

新市の15歳未満人口(年少人口)の割合は15.9%、65歳以上人口(高齢人口)の割合は20.5%と、高齢人口が年少人口を約4.6ポイント上回っています。(平成12年国勢調査)

県や全国と比較すると、14歳以下の人口割合は県や全国よりもやや高くなっていますが、高齢者の割合は、県平均よりやや低いものの全国を3.2ポイント上回っており、生産活動の中心となる15~64歳の層も低くなっています。

人口の年齢構成 (単位: %)



資料: 平成12年国勢調査

また、地域を支えるための経済基盤を高めるとともに、活力ある地域をつくるためには産業活動の振興が必要です。新市の基幹産業は農業ですが、その雇用吸収力は十分ではありません。製造業などにおいても、生産拠点の海外進出による物づくりの空洞化など産業構造の変動にさらされています。

今後、少子高齢化が急激に進行することが予想されます。新市においては、若い人たちが定着するための条件を整備することが必要ですが、そのためには、強い経済基盤を形成するとともに、子育てのための条件や文化活動しやすい環境などの総合的な充実が必要です。また高齢者についても、生きがい・健康づくりへの支援などの施策を充実する必要があります。

新たな行政課題の解決

地球環境問題への取り組み、男女共同参画社会の形成、高度情報化社会や国際化への対応など、時代の波とともに新たな社会的課題が現れています。

新市においても、有害物質を排出しない廃棄物処理場の整備が喫緊の課題になっており、これらとともに、地域が一体となった資源回収活動の展開など、効果的で的確な環境施策の推進が望まれています。

また行政職員についても、新たな課題に対して専門的な知識や技術を備えることによって対応するとともに、より質の高い行政サービスを提供することが求められています。そしてこれらのためには、合併による行政機能の高度化や財政力の充実が求められます。

行財政力の自立性向上

地方分権が進行し、またこれに伴ういわゆる「三位一体の改革」によって、国と地方との関係は大きく変わるとともに、住民と直接接する地方自治体の権限と責任はさらに重くなります。

今後、税源の委譲、補助金の削減、交付税の改革などがさらに進行しますが、これは自治体が自ら判断し、自らの責任で最も有効な施策を講じなければならないことでもあります。

新市を構成する各町においては、税収の減少や高い経常収支比率などの問題がすでに生じており、地方分権の時代を担うためには、行政力と財政力の両面で充実を図ることが課題になっています。

しかしその一方、これらの流れは、自治体が地域の実情や個性にふさわしい施策を講じる幅が広がることでもあります。すなわち行財政の面での自立性を高め、住民の意向を的確に反映しつつ、地域の個性を活かしたまちづくりを進める好機としてとらえることができ、合併という手段によって行財政運営水準の向上や総合力を高めることが有効です。

(2) 那賀5町合併によって期待される効果

地域課題の一体的解決

那賀5町は、紀の川水系によって結ばれ、また和泉山脈と紀伊山地に囲まれる共通した自然と風土のもとに形成されてきました。また、紀の川中流流域下水道や京奈和自動車道・関連道路など共通する整備課題も有しています。

那賀5町が合併することによって、水質や森林などの環境保全や治山治水、果樹栽培などで共通する農業の振興、中山間地の振興、広域事業の推進などの地域課題を一体的にとらえ、効果的な施策を推進することができます。

生活ニーズへの対応

自動車の日常的利用、文化の創造や芸術の享受、暮らしのあらゆる面における多様化など、人びとの間には都市的生活様式が浸透し、その内容も高度化するとともに、その行動圏も広域化してきています。おり、またよりよい住環境を形成するためには、生活の実情を反映した都市整備が必要です。

合併に基づく広域的な施策の推進によって、生活圏に対応した道路・交通の体系的整備など都市基盤の充実、多様な住宅の供給や市街地整備による良好なまちづくりの推進、保育所や学校の適正配置と設備の充実、都市核の形成による豊かな生活サービスとにぎわいを生み出すまちの形成などを図ることができます。

高度な行政サービスの提供

合併によって、これまで各町が別々に行っていた行政事務や事業を一元化することができ、効果的・効率的な業務の推進が可能になります。また、現在各町に設置されている図書館、公民館など住民利用施設のネットワーク化や福祉ボランティアなど人材面でのネットワーク化などによって、その効果を高めることができます。

行政組織においても、専門部署の設置や専門職員の配置ないしは職員の専門的能力の向上を図ることができるとともに、新市の特性に応じた独自施策の立案・推進などを行うことができます。

また、財政力を強化することによって、生活の高度化に応じた公共施設等の整備を進めることができます。

自立的で個性豊かな地域の創造

新市として一体化することによって、地域共通の課題を解決できるだけでなく、各町に分散している各種の地域資源を総合化して全体の力を高めることが可能になります。

たとえば紀の川、和泉山脈、紀伊山地の自然や各地に分布する社寺などの観光資源を有機的にネットワークし、情報発信することによって本格的な観光産業の形成を図ることができます。また、産業団地のネットワーク化による企業誘致策の充実、市内の各地の企業や伝統技術を活かした新たな産業の創出、農産物の地産地消の推進や新製品の開発などによって、産業を振興し、地元で雇用力を高めていく可能性が高まります。

また、人口がまとまることから、住民の交流によってコミュニティや新市全体の活力を高めること、および自主的な住民活動やボランティア活動に対して支援することもより容易になり、個性豊かな活力ある地域づくりを進めていくことができます。

(3)住民の意識と計画課題

那賀5町の将来のまちづくりに関する住民意識調査

那賀5町の合併に際し、住民のみなさんの生活環境に対する評価や新市に抱く将来像などを把握し、新市建設計画策定のための参考資料とするため、平成16年4月～5月に**住民意識調査**を行い、6,343人の方から回答をいただきました。

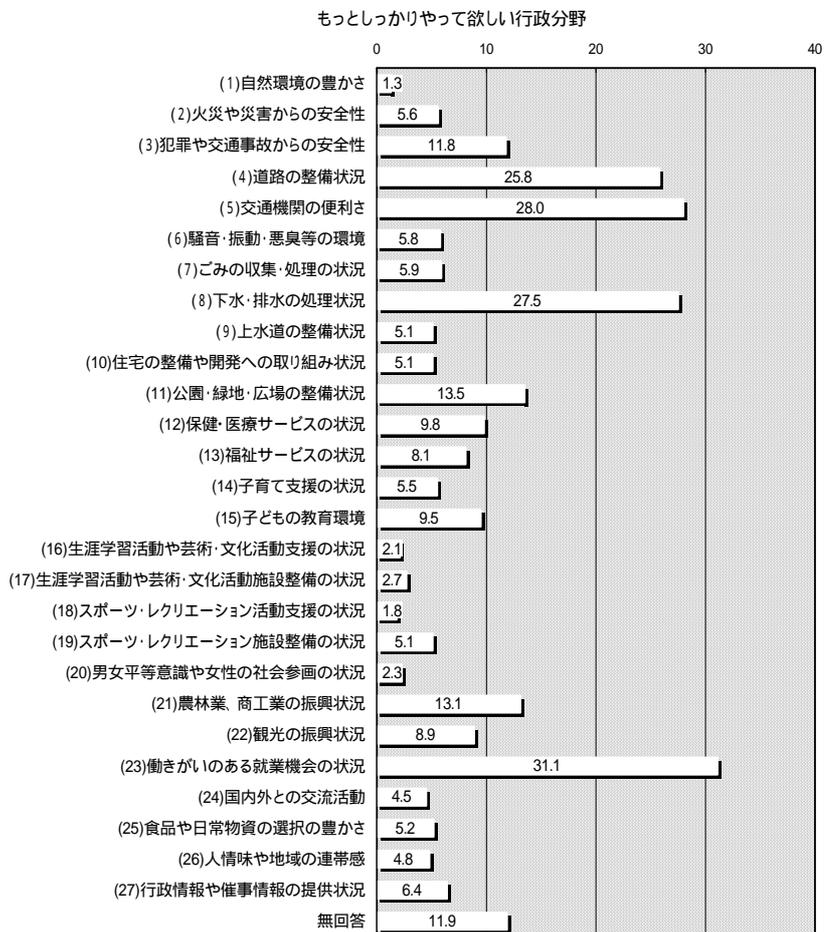
この節では、新市の課題につながる設問について、その回答結果のあらましを紹介しています。その他の主な調査結果は、この建設計画の随所で紹介いたします。

(グラフ中の数字はすべて百分比(%))

もっとしっかりやって欲しい行政分野 (問4-2)

「(23)働きがいのある就業機会の状況」が31.1%と最も高くなっています。

これに「(5)交通機関の便利さ」(28.0%)、「(8)下水・排水の処理状況」(27.5%)、「(4)道路の整備状況」(25.8%)が続きます。**いずれも20%以上の支持を得ています。**



合併に期待する新市の将来像 (問9)

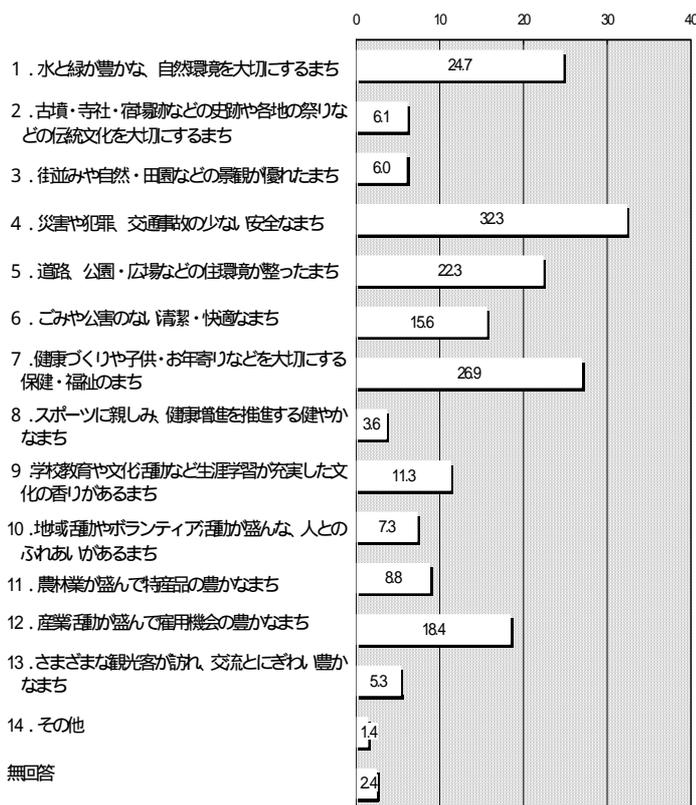
合併に期待するまちのすがたの第1位は「4.災害や犯罪、交通事故の少ない安全なまち」(32.3%)で、約3分の1の回答者に支持されています。第2位は「7.健康づくりや子供・

お年寄りなどを大切にする保健・福祉のまち」(26.9%)で、健康と福祉にすぐれたまちが求められています。これに「1.水と緑が豊かな、自然環境を大切にするまち」(24.7%)、「5.道路、公園・広場などの住環境が整ったまち」(22.3%)、「12.産業活動が盛んで雇用機会の豊かなまち」(18.4%)が続きます。

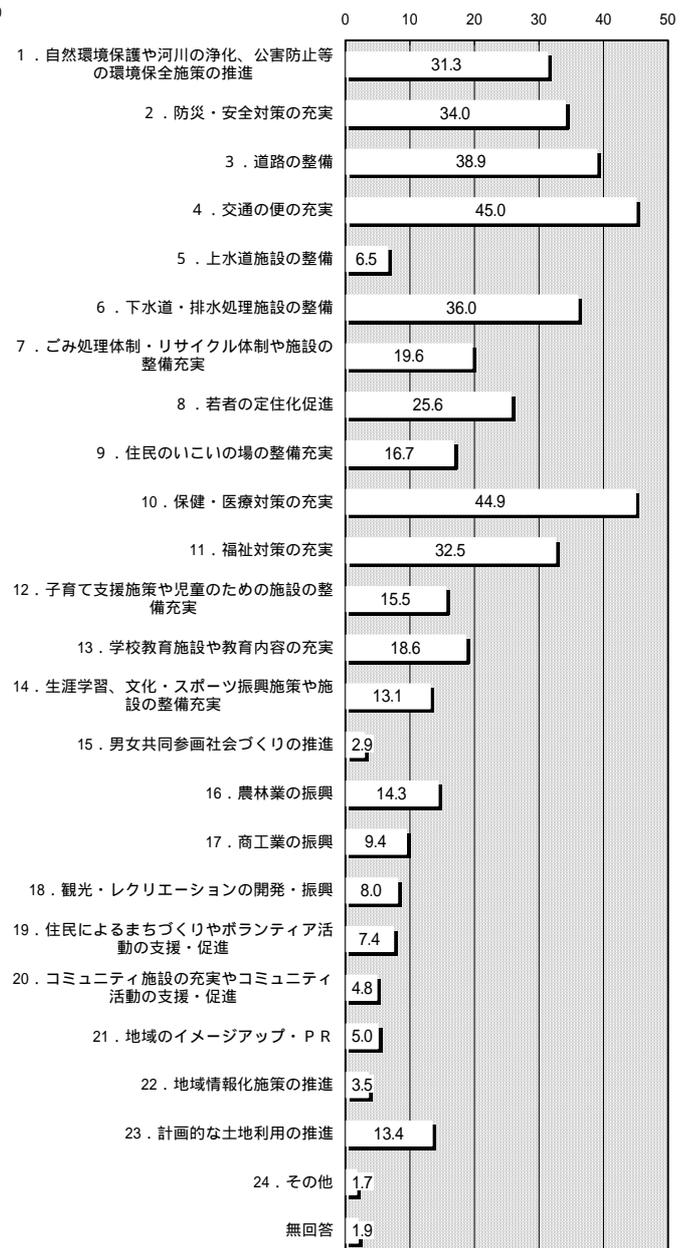
もっとしっかりやってほしい行政分野住民が望む合併後の重点施策 (問10)

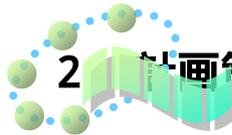
「4.交通の便の充実(鉄道・バス路線等の充実促進)」が45.0%、「10.保健・医療対策の充実(病院や救急医療体制の充実など)」が44.9%で、交通問題と保健・医療対策が上位に位置しています。また第3位の「3.道路の整備(舗装、拡幅、歩道設置、基幹道路の整備促進など)」(38.9%)も交通問題で、交通は地域共通の重点課題となっています。これに、「6.下水道・排水処理施設の整備」(36.0%)、「2.防災・安全対策の充実(治山治水、消防、防犯、交通安全など)」(34.0%)が続きます。

合併に期待するまちのすがた(将来像)



合併後の重点施策





2 計画策定の方針

(1) 計画策定の趣旨

この計画は、「市町村の合併の特例に関する法律」第5条第2項の規定に基づいて策定するもので、和歌山県那賀郡に属する、打田町・粉河町・那賀町・桃山町・貴志川町の合併による新市を建設していくに当たっての基本方針を定めるものです。

新市の設立後には、あらためて~~基本構想・基本計画・実施計画~~長期総合計画を策定することになりますが、この建設計画はその際の基本的な方向を示す役割を担います。

(2) 計画の構成と期間

構成

この計画は、新市のあるべき全体像などを示す「基本構想」、分野ごとの施策を示す「新市のまちづくり施策・主要事業」、公共的施設の整備や配置の方針を示す「公共的施設の整備方針」、行政運営の基盤とある財政の将来を示す「財政計画」で構成します。

期間

この計画の期間は、平成 年度から平成 年度までの10年間とします。

策定方針

- ・本計画の実現をめざすことによって、住民生活の向上と新市の速やかな一体化を推進し、新市の均衡ある発展を図るものとします。
- ・本計画は、各町がこれまでに策定した長期総合計画などの比較検討、その進捗状況、および住民意識調査結果による住民意向を十分に配慮して策定するものとします。
- ・本計画は、新市の現状と将来予測を踏まえ、長期的な視野のもとに策定するとともに、新市が抱える課題を具体的に解決するものとします。
- ・本計画は、地域の特性、伝統・歴史を尊重するとともに、各地域の均衡のもとに発展するよう、また住民サービスの低下を招くことのないように配慮して策定するものとします。
- ・本計画中の財政計画については、財政の現況、将来の事業計画、合併にあたっての国・県による財政支援などを正確に把握し、健全で計画的な財政運営を図るものとします。

3 新市の概況

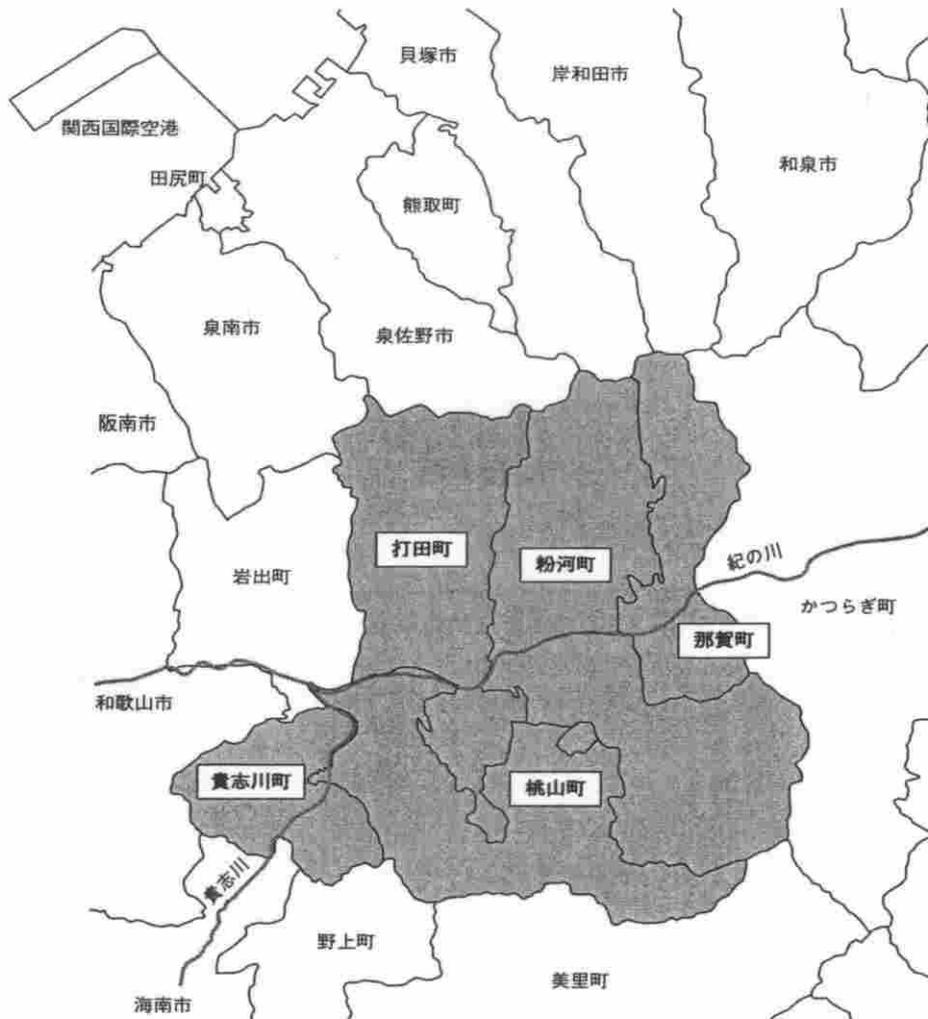
(1) 位置・地勢

新市は和歌山県の北部に位置し、~~県内では~~西を那賀郡岩出町および和歌山市に、東を伊都郡かつらぎ町、南を海南市および海草郡野上町・美里町に接しています。北は大阪府（岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市）に接しています。

地勢は、北に和泉山脈、南に紀伊山地を控え、この間を東西に一級河川紀の川が貫流しています。また南部からは貴志川が紀の川に合流しています。平地はこれら河川に沿って発達しています。

なお、新市の総面積は 228.54 km² で、和歌山県の約 5 % に該当します。

那賀5町の位置



(2)交通

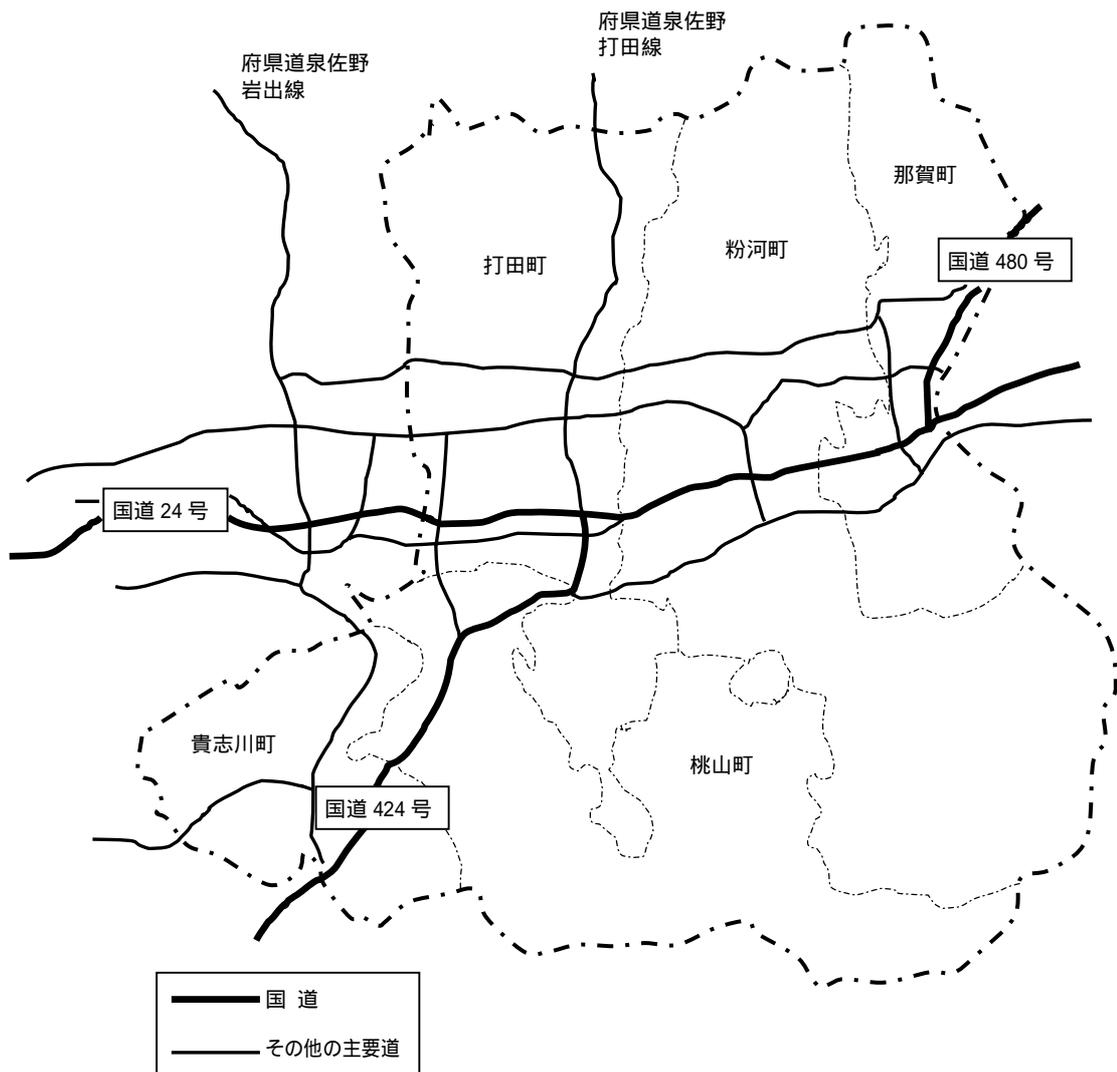
道路交通では、国道24号が地域を東西に貫き、和歌山市および橋本市・奈良県方面と結ぶほか、海南市方面と結ぶ国道424号が通っており、これらが幹線道路としての役割を果たしています。

和歌山市および奈良・京都方面と結ぶ京奈和自動車道が計画されており、新市内では粉河町と打田町にインターチェンジ設置が予定されています。

鉄道では、JR和歌山線が域内を東西に通じ、東を伊都郡・橋本市・奈良県方面と結び、西を岩出町・和歌山市と結んでいます。ピーク時1時間3~5本、その他の時間帯は1時間2本程度の運行であり、5つの駅があります。また貴志川町には南海貴志川線があり、1時間2本程度の間隔で運行しています。

また新市の北西約30kmには関西国際空港が位置し、地域の中心からは、府県道泉佐野打田線などによって約1時間で達することができます。

主要道路網



(3)人口

新市の人口は、平成12年国勢調査では70,067人で、昭和55年以来増加傾向にあり、平成7年と12年の間の増加率は1.8%となっています。人口増加には主に西部の貴志川町と打田町が寄与しており、粉河町・那賀町・桃山町では横ばいないし減少基調となっています。

平成12年国勢調査による世帯数は21,956世帯で、1世帯あたり3.19人となっています。

人口の年齢別構成では0～14歳人口~~14.9%~~15.9%で和歌山県平均(~~15.9%~~14.9%)と比べて1ポイント高くなっています。また65歳以上人口は20.5%で、県平均(21.2%)より0.7ポイント低くなっています。町別には貴志川町において比較的若年層が多く、0～14歳人口割合が65歳以上人口割合を上回っています。(平成12年国勢調査)

就業人口の構成では、新市の第一次産業従事者は21.0%で、和歌山県平均の10.6%の2倍近い割合で、農業が盛んです。特に粉河町と桃山町では第一次産業従事者割合が高くなっています。貴志川町はこれらと対照的に、第一次産業従事者が県平均をも下回り、第二次産業の割合が高くなっています。(平成12年国勢調査)

従業員の通勤状況を見ると、那賀5町の外に通勤する従業員の通勤先は和歌山市が多くなっています。(那賀5町の将来のまちづくりに関する住民意識調査)

人口の推移(単位:人)

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
打田町	12,934	13,576	13,868	14,635	15,194
粉河町	17,094	16,811	16,171	17,016	16,918
那賀町	10,189	9,705	9,377	9,103	8,835
桃山町	9,176	9,052	8,574	8,026	8,041
貴志川町	12,825	15,287	17,136	20,022	21,079
合計	62,218	64,431	65,126	68,802	70,067

(4)土地利用

新市は全体に山がちの地形であり、固定資産税の価格などの概要調書(平成15年)によると山林が89.49km²で最も広がっています。市街地や集落などの宅地は11.45km²です。

山麓部や丘陵部を生かした果樹栽培が盛んで、これを主体とする畑が山林に次ぐ32.62km²の広さで、田は第3位の25.83km²となっています。山林の割合は桃山町が最も高く、畑の割合是那賀町が最も高くなっています。

(5)各町の概況

打田町

打田町は、古くから撰閑家の荘園として栄え、平安・鎌倉時代を代表する歌人である西行の生誕地でもあります。昭和31年に池田村と田中村が合併して現在の打田町となりました。

北の和泉山脈からゆるやかな傾斜をなして南は紀の川南部に至り、面積は42.45km²です。田畑の面積は5町の中では粉河町に次ぐ広さとなっています。

粉河町

粉河町は、西国三十三番札所として知られる粉河寺を中心に発展してきました。昭和30年に、旧粉河町・長田村・竜門村・川原村と王子村の一部が合併し、その後昭和31年に鞆淵村を編入して現在の粉河町となりました。

紀の川を中心に、北は和泉山脈、南は龍門山・飯盛山を含む紀伊山地に至り、面積77.73km²で5町の中では最も広い町域となっています。田畑は5町の中で最も広い面積を有しています。

那賀町

那賀町は、高野山の荘園として開け、町の中心地名手は大和街道・高野街道の宿場町として栄え、旧名手本陣母屋などは国指定の重要文化財に指定されています。江戸後期に世界初の全身麻酔を施し、乳がんの摘出手術に成功した華岡青洲の出身地としても知られます。

現在の那賀町は、昭和30年に名手町・上名手村・狩宿村・麻生津村、および王子村の一部が合併して誕生しました。

町域は北に葛城山を、南に飯盛山を控え、その間を紀の川が貫流しています。面積は、28.12km²で田畑の面積は、5町の中で最も高い割合となっています。

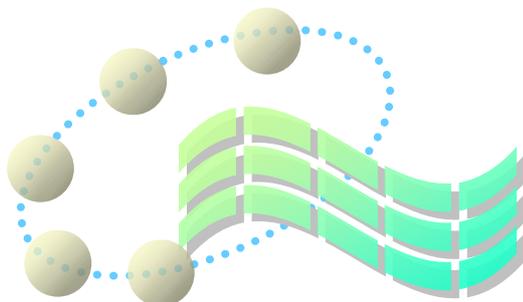
桃山町

桃山町は、高野山の荘園として栄え、昭和31年に安楽川町・奥安楽川村・調月村が合併して誕生しました。また、昭和32年に細野村の一部を編入し、現在に至っています。

町の北側に紀の川を控えるとともに西側を貴志川が流れ、南は紀伊山地に広がる山がちな地形で、総面積51.75km²で、山林の割合が5町の中で最も高くなっています。

貴志川町

貴志川町は、古来高野山の荘園として開け、江戸期には紀州藩領として栄えてきました。昭和30年に東貴志村・中貴志村・西貴志村・丸栖村の4村が合併して現在の貴志川町となりました。



第2章 基本構想

1 新市建設の基本方針

- (1) 新市建設の理念と将来像
- (2) 将来像を実現するための基本的な考え方

2 主要指標の見通し

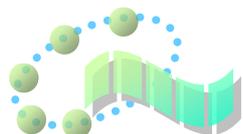
- ~~(1)人口・世帯数~~
- ~~(2)年齢階層別人口~~
- ~~(3)就業人口~~

3 土地利用構想

- (1) 整備の全体方向
- (2) 新都市の構造

4 新市発展プロジェクト

- (1) いきいき人・まちプロジェクト
- (2) きらきら土・水・緑プロジェクト



1 新市建設の基本方針

(1) 新市建設の理念と将来像

[背景]

建設計画策定のために実施した住民意識調査(那賀5町の将来のまちづくりに関する住民意識調査)の結果によると、新市の将来像(問9)としては、まず災害・犯罪・交通事故などの少ない安全なまちであることが最も高い支持を得ています。これに次いで保健・医療や福祉の充実など、健康で安心できる生活が求められています。また、豊かな水・緑からなる自然環境を保護することや道路・公園など住環境の充実に対しても大きな関心が寄せられています。

これらのことから、人びとは、地域の基盤になるものとして豊かな自然を尊重し保護しつつ、社会生活面ではまず「安全で安心であることな暮らし」が願われていますを望んでいます。そしてこれらの上に立ち、市民が平和で安心して暮らせる社会を構築し、さらに生活の利便性や快適性が確保されることが必要であると考えられています。を高める努力が必要です。

[背景]

~~また、~~ 県下的な状況を見ると、新市は人口約7万人、面積228.54km²を有し、地理的条件や自然環境面にめぐまれ、これら地域の特性を活かすことにより中核的なまちとして、発展できる可能性を秘めています。しかし、今後~~はとも~~少子高齢化傾向が持続進展することが予測され、バランスある人口構造を維持・回復することによって、住民が互いに助け合いながら、生き生きとまちづくりに取り組み、定住性の高い都市を建設することが望まれます。

そのためにも、安心・安全なまちづくりや都市機能・生活道路の整備など、暮らしを支える条件を整備すること、および関西国際空港や整備が予定される京奈和自動車道などの広域交通基盤を積極的に活用して産業発展を期すること、および多種多様の農産物やこれらを生み出す豊かな農地を地域の個性としてより強く売り出していくことなどにより、地域に活力を生み出すことがをめざされますをめざします。

新市建設の将来像を、これらの住民意向や地域課題に基づいて設定します。

〔将来像〕

那賀5町による新市の将来像を次のように描きます。

**自然のキャンバスに
人びとが美しい暮らしを描く
文化・交流創造都市**

**元気で安心、そして交流の輪がひろがる
文化創造都市**

**自然の中で人びとの輪がひろがる
文化・交流創造都市**

**やさしさ・健やか・活力
紀北の中核都市**

これまで地域の発展は、生産量の急速な**拡大増加**やそれにとまなう就業者の急速な**拡大増加**、またそのための住宅地の**成長拡大**などによって達成されてきました。

これらを経た21世紀の初頭に立ち、わたしたちはこれまでの成長のあり方を振り返り、自らの足元を見つめ、暮らしの質を深めることをめざしています。すなわち、ひたすらモノの獲得を求めるのではなく、ゆっくりと心を充実していくことが望まれています。

そして、その心を育ててくれる最も基本になるものは、紀の川水系や和泉山脈あるいは紀伊山地などの自然であり、またこれらの自然・風土と調和して蓄積されてきた地域の伝統・文化です。

一方、地方分権が進行するなか、住民においても主体的な取り組みが求められています。これまではともすれば「まちづくり」は行政のすること、という認識が一般的でした。しかし地方自治体が自主・自立の道を歩みつつあるように、住民においても助け合いや社会貢献などの行動を通じ、主体的なまちづくりを進め、これらの取り組みによってまちを良くしていくことが求められます。またそれが心の充実を獲得する一つの道でもあります。

自然・風土という舞台のうえで、この地域に住む人びとが、行政との協働も交え、主体的に考え、行動することによって自らの暮らしを美しいものとしていくこと、そしてそれが新たな地域の文化を創造していくことをめざし、この将来像を設定します。

(2) 将来像を実現するための基本的な考え方

いまの暮らしを大切にす

川・山・森などの自然、古くから伝わってきた文化を大切にし、いま地域に生きる人びとが健康で、安心して長く住み続けることのできる新市をつくりま

静かで清潔、水・緑の豊かさのなかでの生活環境の実現

- ・美しい水と緑をみんなで守るとともに、環境にやさしい生活の実践などを通じた循環型社会を形成します。
- ・住環境整備など推進し、潤いのある暮らしの空間を形成します。
- ・人びとが理解し合い、助け合うことによる安心と安全の地域社会をつくりま

人の息吹で地域が華やくための活動条件の充実

- ・文化を愛し創造し、また主体的に学び続けることのできる地域をつくりま
- ・一人ひとりが積極的に自らの健康を構築できる条件を整備します。

すべての人びとが安心して暮らせる社会基盤の充実

- ・安心して子どもを育てることのできるまちとするとともに、子どもが快活に育ち・学ぶことのできる条件を整備します。
- ・お年寄りや障害者がいきいきと暮らせる共生のまちづくりを進めます。

地域の活力を養う

住民の暮らしを支える基本的条件を充実するとともに、人びとの活動力を高めるための都市基盤を充実し、産業の力を高めることによって都市としての活力を養いま

各地区の有機的連携と都市機能の充実

- ・新市の顔となり、にぎわいの場となる拠点を形成します。
- ・中山間部における生活基盤を充実するとともに、交流などによる振興を図ります。
- ・新市の一体化と各地の均衡ある発展を促進するため、道路・交通網整備を促進するとともに、京奈和自動車道を新市の発展に活かしま

農林業から観光産業まで、産業活力の向上

- ・多様な産物のブランド化、安全・安心な農産物のアピールなど農業の発展をさらに推進します。
- ・広域交通基盤の充実を軸とした新たな産業の立地を推進します。
- ・参加・体験型農業による「スローライフ」*の場の提供やコミュニティ・ビジネス*の促進など、個性あるしごとづくりを推進します。

* スローライフ：「早く、安く、便利に、効率よく」を目標としてきたこれまでの発展に対して、自分の価値観を見つめ、ゆっくりと生活の質を深めようというライフスタイルの提唱。1986年にイタリア北部の小さな町ブラで始まった「スローフード」運動からヒントを得たことば。

* コミュニティ・ビジネス：地域や社会の課題を解決するために、ビジネス的手法でおこなわれる事業活動の総称。たとえば、高齢者に対するデイサービス提供、障害者によるパンの製造・販売、伝統的な建築物の再生、地場野菜の復活・流通など、さまざまな分野に広がって

います。

交流で、まちを元気にする

新市のなかでは、各地域・各世代が互いに結び合うことによって「美しい暮らし」を実現するとともに、広域的な来訪を呼ぶ魅力ある地域づくりを進めます。

各世代、各地区が互いに理解し協力し合う交流社会の推進

- ・新市内各地域間の情報ネットワークの拡充・緊密化を進めるとともに、生涯学習の活動などを通じて活発な交流を促進し、「人づくり」をめざします。

観光・交流ネットワークの充実

- ・豊かな自然、寺社や史跡などの歴史的な蓄積、あるいは農業直販施設などを有機的に連携し、新市全体の魅力を高めるとともに、これらをまとめる観光推進力の充実に図ります。
- ・中山間部においては、農地・森林を生かした交流産業の育成を図ります。

歴史文化資源の見直し、再発見とまちづくり、観光化への発展

- ・歴史文化資源の再発見、発掘を進めることによって、住民の交流を活発化し、また新市の新たな魅力を創造します。

住民主体のまちづくりを推進する

人びとが能動的にまちづくりに向かう力を引き出し、養うとともに、市民と行政とが協働して地域を活性化します。

助け合いと主体的なまちづくりで、活力ある地域の創造

- ・地域における福祉活動など相互扶助の推進などを進め、信頼と安心のコミュニティを創造します。

ボランティアの育成、NPOなど推進する仕組みづくりの支援

- ・人びとが助け合ってまちづくりに取り組むため、ボランティアリズム*の普及を進めるとともに、主体的なまちづくりを推進するための支援を図ります。

*ボランティアリズム：コミュニティや社会の課題を解決していくための、一人ひとりの自発的な（ボランタリーな）取り組み、またはその姿勢のこと。

各分野間の連携促進

- ・大学や研究機関、地域の企業、住民、行政などが相互に交流し、連携を深めていくことによって新市のもつ総合的な力を高め、まちづくりを推進します。

新市の総合力を発揮する

長期的視点に立って新市の運営や行政投資を考え、新たな都市の結成による効果を十分に引き出します。

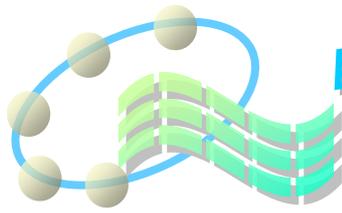
行財政運営の効率化と行政サービスの向上

- ・的確な財政運営、行政組織の改革、職員の専門的能力の向上などにより、すぐれた

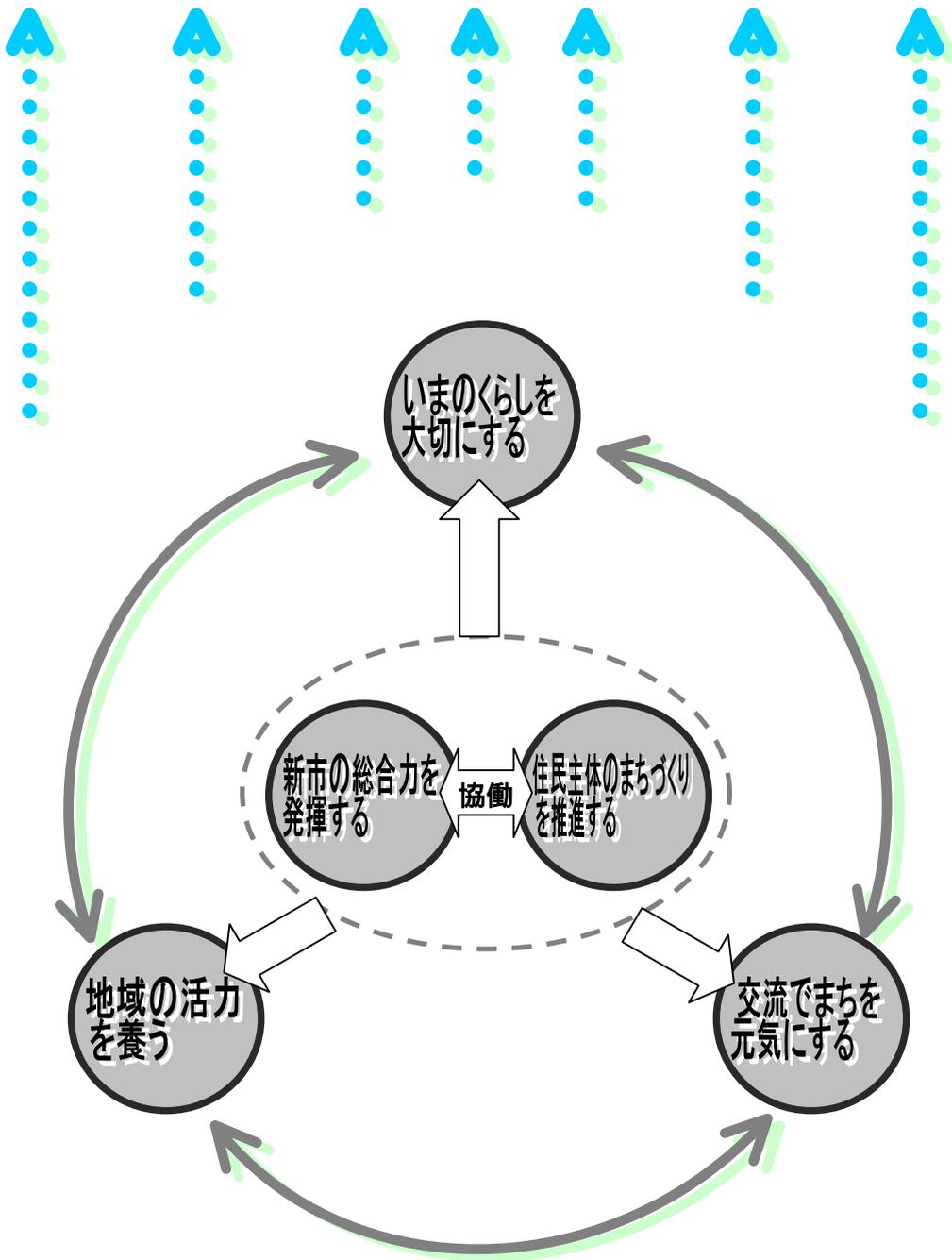
サービス提供を図ります。

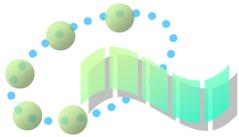
新市の均衡ある発展と有機的な結合

- ・これまでの各地域の歴史や伝統を尊重するとともに、各地域間および各地域と新市全体とのバランスに留意した行政運営をおこないます。
- ・総合的な土地利用の推進、交通基盤・生活基盤の効果的な整備によって、暮らしやすく働きやすい地域をつくります。



自然のキャンバスに
人びとが美しい暮らしを描く
文化・交流創造都市





2 主要指標の見通し

過去の出生率・生残率・社会移動率などの傾向を将来にあてはめたコーホート要因法という手法を適用して計算した結果、2015年（平成27年）の**新市5町合計**人口は70,391人となります。

新市において、安全で安心できるまちづくりを進めるとともに、生活道路整備などの利便性向上や生活環境の充実などを重点的に推進して定住性を高めることにより、2015年（平成27年）の人口見通しを**72,000人**とします。また世帯数は**24,000世帯**（1世帯あたり3.0人）とします。

68,802に直して下さい。

総人口と年齢3区分別人口

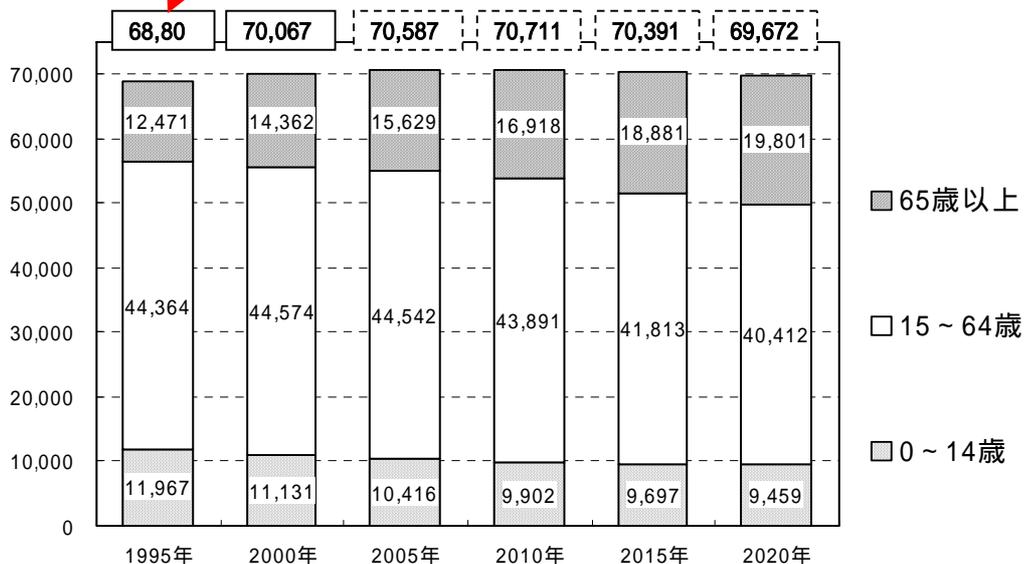
(単位:人)

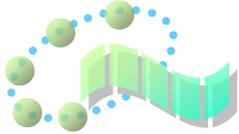
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
	(平成7年)	(平成12年)	(平成17年)	(平成22年)	(平成27年)	(平成32年)
0～14歳	11,967	11,131	10,416	9,902	9,697	9,459
15～64歳	44,364	44,574	44,542	43,891	41,813	40,412
65歳以上	12,471	14,362	15,629	16,918	18,881	19,801
総数	68,802	70,067	70,587	70,711	70,391	69,672

(単位:%)

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
	(平成7年)	(平成12年)	(平成17年)	(平成22年)	(平成27年)	(平成32年)
0～14歳	17.4%	15.9%	14.8%	14.0%	13.8%	13.6%
15～64歳	64.5%	63.6%	63.1%	62.1%	59.4%	58.0%
65歳以上	18.1%	20.5%	22.1%	23.9%	26.8%	28.4%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

総人口・年齢3区分別人口 (単位:人)





3 土地利用構想

(1) 整備の全体方向

那賀5町地域における土地利用ごとの整備の方向性、および留意事項を以下のように定めます。

森林・河川については、地域の全ての基盤であるとともに、地域の個性を表現するものと認識し、その保護・保全に努めます。これとともにまた、環境を損ねず、これらの恵みを楽しむための活用などを推進します。

農地については、森林に次いで広い面積を占めており、地域経済を支える大きな柱であることから、優良農地の保全、ため池など生産基盤の整備および耕作放棄地の再生に努めます。また「作る農業」だけでなく「楽しむ農業」としての展開もを図り、都市との交流も推進します。

住宅地については、下水道・生活道路などの整備に努めるとともに、良好な住宅地が形成されるよう指導・誘導を図ります。

商業地のうち、既存商店街などについては、駅前整備の推進などと合わせ、商業環境の整備を図ります。

工業用地については、振動・騒音などの影響がないよう指導を行うとともに、産業団地への誘致を強化し、雇用の促進を図ります。

交流機能・業務機能の集積などを図り、新市にふさわしい都市核の形成を図ります。

京奈和自動車道など域外と広域的に連絡する道路の整備促進を図ります。またこれらに対応した産業団地の設置などについて検討します。

域内の南北道路の強化・充実を進め、新市が有機的に一体化するよう努めます。また中山間地の交通手段確保などに努めます。

古い市街地建築物、寺社林、農村集落など、土地利用ごとにふさわしい景観の保全と整備誘導を図ります。

(2)新都市の構造

新市の構造を、軸とゾーンで模式的に示し、それらの基本的方向を掲げます。

【都市軸】

東西複合軸

京奈和自動車道の整備が予定されるほか、すでに JR 和歌山線や国道 24 号が地域外と結ぶ役割を果たしており、また県道粉河加太線・同和歌山橋本線・広域農道橋本岩出線なども広域的な交流に資する役割を果たしていることから、これらに沿って連なる地区を、東西の主軸とします。

広域的機能を果たす基幹的施設の立地を誘導するほか、新市の核となる拠点の整備などを図ります。

南北交流軸

府県道泉佐野打田線が、大阪方面との連絡に域内で最も中心的な役割を果たしており、また国道 424 号が南部の桃山・貴志川町域および海南市方面と結んでいることから、これらに沿った地区を、地域内外を南北に結ぶ主軸とします。

京奈和自動車道インターチェンジとも直結することから、広域的機能を持つ基幹的施設の立地を誘導します。

紀の川・貴志川シンボル軸

紀の川・貴志川を新市のシンボルとして位置づけ、これら河川によって形成される空間をシンボル軸とします。

美しい水面を望み、また触れることのできる空間整備を図るほか、水面を利用したイベントや河川敷の利用促進などを図ります。

【ゾーン】

北部山間ゾーン

北は大阪府との境界である和泉~~葛城~~山脈の主稜線、南をおおむね農地の北限とした領域を北部山間ゾーンとします。

森林部分においては、その保護を図るとともに、地滑り地域なども含めた治山・治水対策による保全を充実します。

観光林道が整備されている葛城山頂付近においては森林レクリエーション機能の充実を図るほか、低地部の温泉施設や農業レクリエーション施設とも連携したハイキングコースの整備などを図ります。

山麓農工ゾーン

おおむね和泉~~葛城~~山脈の山麓部から南の市街地北端までの領域を山麓農工ゾーンとします。

このゾーンでは、柿・柑橘類・桃などの特徴ある果実を産することから、農業基盤整備などによる農業生産機能をさらに高めるとともに、市民農園や観光農園など農業レクリエーション機能を充実し、農の複合化を図ります。

また県道粉河加太線沿道にはすでに各種製造業の立地も見られ、2か所の京奈和道インターチェンジ（予定）にも短時間で到達できることから、粉河加太線沿道やインターチェンジ周辺においては、新たな産業拠点の整備のほか、上記の観光レクリエーション機能なども集積した複合的な新拠点として整備を検討します。

市街地複合ゾーン

北は、前記の山麓農工ゾーンと一部重なり合い、紀の川を南北に挟む領域を市街地複合ゾーンとします。

このゾーンでは、最も古くから市街地が発達し、行政・文化・商業などの機能が集積しています。国道24号沿道や貴志川町中心部には、大型専門店、スーパー、娯楽施設などが立地するほか、近年では住宅開発も盛んであると同時に農業生産も盛んに行われ、さらに工業用地を有するなど多くの機能が複合しています。

今後は、都市計画、農業振興計画相互の整合性を図りながら的確な土地利用計画を作成し、都市環境および農業環境などの充実を図ります。また生活道路や公園などの整備を進めるなど良好な市街地の形成に努めます。

中山間ゾーン

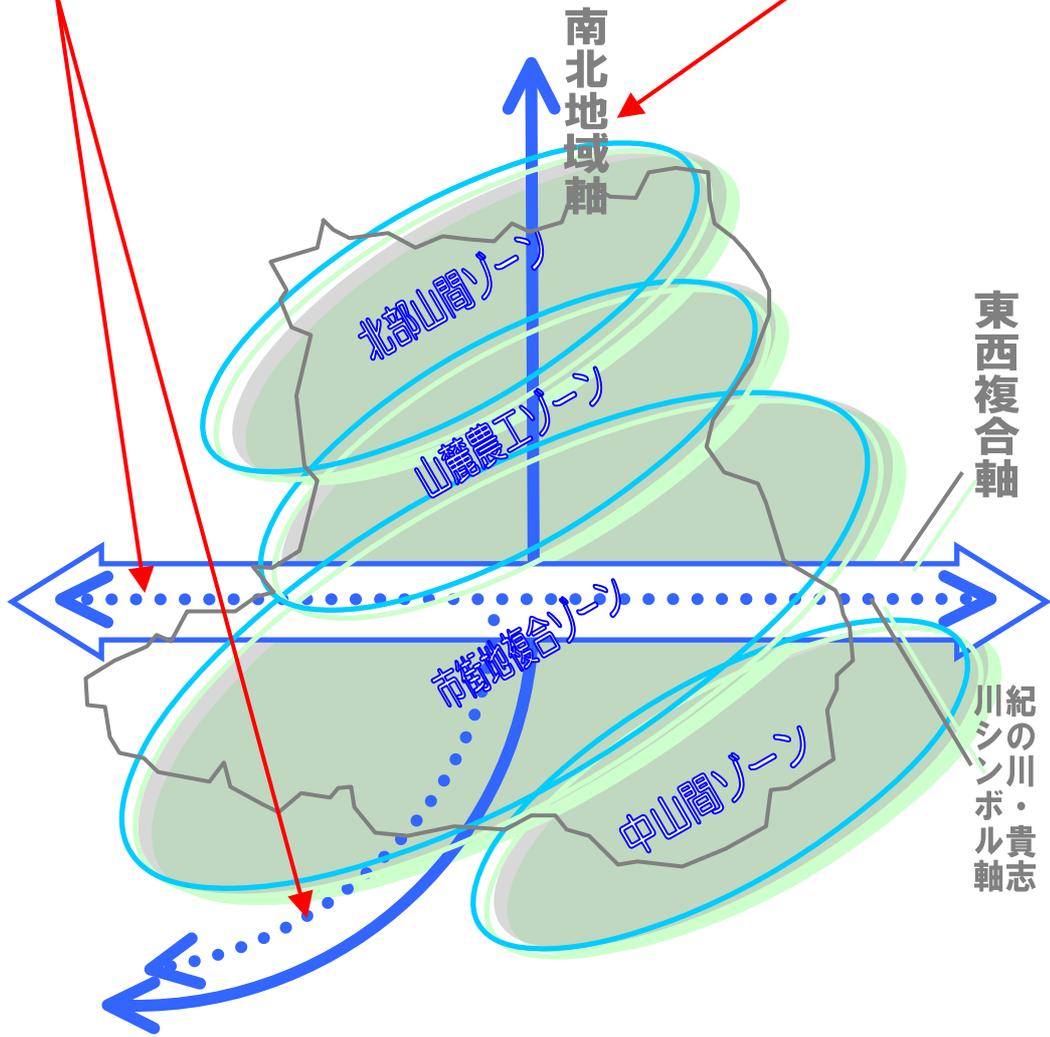
桃山町東部および粉河町南部の、紀伊山地の領域を中山間ゾーンとします。

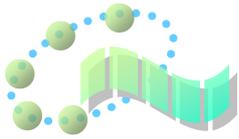
このゾーンでは貴重な生物の生息する美しい山林を基盤として、静穏な環境のもとに集落が点在し、果樹栽培を中心に農業が営まれています。交通の不便さや平地の乏しさなどのために、人口減と高齢化が進行しています。

このため、道路整備やコミュニティバス運行などによって住民の生活基盤の充実を図るとともに、新規農業者の導入や都市生活者の定住促進、森林レクリエーションの推進など広域的な交流によって地域の活力を養います。

色を変える

「南北交流軸」に変える



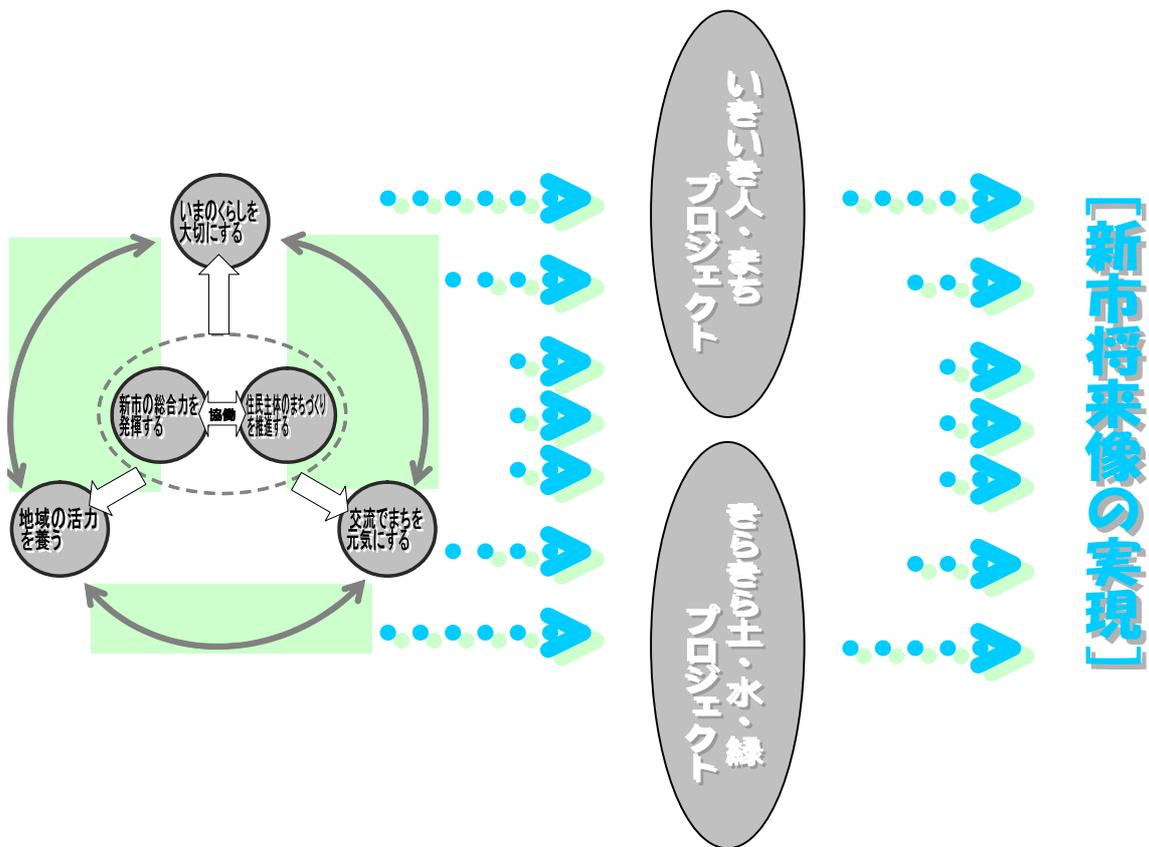


4 新市発展プロジェクト

新市として発展するための条件として、さまざまなものがあげられますが、そのなかで最も重要な要素は「ひと」です。ここに住む人びとが地域を愛し、また快活に生きることのできるまちであり続けることが、すなわちまちの発展であるといえます。

それと並んで大切なことは、新しい市が「地域らしさ」を備えていることです。地域に根ざす自然や風土を生かし、またそれらが培ってくれた独自の個性文化を生かしていくことが新市を個性豊かに発展させてゆきます。

このことから、新市における発展プロジェクトとして「いきいき人・まちプロジェクト」および「きらきら土・水・緑プロジェクト」を設定し、その推進に努めます。



(1)いきいき人・まちプロジェクト

人びとがいつも健康で快活であること、常に時代の変化を敏感に察知し、学びながら意欲をもって生活していくこと、またそのような人びとが互いに助け合い、また主体的にまちづくりに関わっていくための事業を推進します。

いつでもどこでも学べる生涯学習社会の形成

【主要事業】

- ・図書館機能を備えた生涯学習拠点の整備および図書館ネットワークの形成
- ・市民が文化・芸術にふれる場と機会の充実
- ・学校教育内容の充実、公民館活動の推進、学習・文化情報の発信および相談機能の整備など、学習・創造のための支援充実

健康で活力あふれたからだづくりの支援

【主要事業】

- ・保健・医療・福祉の連携による健康づくりの推進
- ・運動公園など、市民が集えるスポーツ空間の整備
- ・地域におけるスポーツクラブの結成など、子どもが多様なスポーツにふれることのできる環境づくりの[推進](#)
- ・一人一スポーツ運動の展開、ニュースポーツの導入・創造

社会参加と生きがいのまちづくり支援

【主要事業】

- ・コミュニティなどにおけるまちづくり活動への支援
- ・市民の公益活動（NPO活動）に対する支援、および行政との協働推進
- ・シルバー人材センターなど高齢者の社会参加・社会貢献への支援

(2)きらきら土・水・緑プロジェクト

新しい市は、河川をはさんで緑豊かな山地が広がるとともに、平地や山麓部では実り豊かな果樹園などの農地が四季折々に土の恵みを生み出しています。

これらの土（農）や水（紀の川・貴志川）、緑（山地）をかけがえのない地域資源として再評価し、人びとの憩いの場やあらたな産業づくりの場として展開していきます。

果樹園芸を軸とした高品質で安全な農業の展開

【主要事業】

- ・農産物のブランド化推進と情報発信力の強化
- ・地域あげての有機 JAS 認定・生産情報公表 JAS 認定など、時代を見据えた農業の展開

農林業の高次化推進

【主要事業】

- ・グリーンツーリズム*や参加体験型農業の推進（フルーツパーク整備、滞在型市民農園の開設など）
- ・都市部児童などの農山村留学、森林ボランティアや林業研修受け入れなど、第一次産業を通じた都市との交流
- ・中山間部における農林業新規就業者の導入や森林レクリエーションの推進

*グリーンツーリズム：「グリーン」とは緑や自然という意味に加え、環境保全や社会・文化の尊重をも意味し、「ツーリズム」とは、物見遊山的観光ではなく、様々な個性的な体験や交流(対流)を通して、心身をリフレッシュする活動を意味します。そして「グリーンツーリズム」とはそのようなライフスタイルの定着によって、総合的な農村産業の振興および農村居住の定着をめざす活動を意味します。

水と緑の保全・整備

【主要事業】

- ・紀の川水系の河川敷整備など市民や来訪者が水に親しめる空間の形成
- ・水や川をテーマとした地域が一体となったイベントの創出
- ・緑や景観を含む歴史・風土の保全・育成推進